巻頭特集

「まんが甲子園」本選3回出場！
愛知県立大府東高等学校 文芸部

仲間と共に、青春をマンガにかける

近年、大府東高校 文芸部の活躍が目覚ましい。全国規模のコンクール「まんが甲子園」本選出場のほか、「広報おおぶ」での連載、地域行事のポスター制作など活動は多岐にわたる。今日も部員は、最高のひとコマを描くため机に向かう。

▲昨年の「まんが甲子園」本選の様子。会場には全国から漫画家の卵が集まり、腕を競う

マンガ家の卵が目指す夢の舞台 夏に開かれるもう一つの甲子園

大府東高校の文芸部が絵を描きはじめたのは、4年程前。現在はマンガで優秀な成績を収めているが、もとは執筆活動をしていた。「私が赴任して顧問になった翌年、部員は絵を描く方が好きではないかと感じ、イラスト制作を勧めました」と笑顔を見せるのは、顧問の加藤千秋教諭。当初の活動は、各々で自由に好きな絵を描くだけだった。

3年生の卒業記念に、高校生を対象としたマンガの全国大会「まんが甲子園」予選に応募しようと加藤教諭が提案した。予選には300校以上の応募があり、本選に出場できるのは約30校という難関。大府東高校の文芸部が審査を勝ち抜くとは、誰も思っていなかった。しかし、結果は予選突破。初挑戦での本選出場を決めた。

予選通過の要因として、第2顧問・岩本佳奈実習助手の存在が大きい。岩本実習助手は以前、豊明高校のイラストレーション部で顧問のひとりを務めていた。

豊明高校は「まんが甲子園」の常連校で、優勝したこともある全国屈指の強豪。その経験を生かして、予選突破のため、熱心にアドバイスしたという。岩本実習助手は「300以上の作品が集まる予選では、まず審査員の目に留まらないと評価してもらえません。テーマに沿いつつ、インパクトが重要と考えました」と言葉に力を込める。

多くの部員は、それまで線の細いアニメーション風のイラストを描いていたが、人の目を惹きつける線の太い作風を習得。場面ごとに描き分ける技術を身に付け、部の実力は大きく伸びた。

平成28年8月、本選初出場のため、部は会場がある高知県に足を運んだ。出場チームは出題テーマに合わせ、1枚の紙にマンガを描く。その後、1次競技、敗者復活戦、決勝戦が開かれ、最優秀賞を決定。大府東高校は1次競技で敗退したものの、部員の表情は晴れやかだったという。

翌年と翌々年も、部は本選に出場。絵を描きはじめてから約4年で3回も予選を突破している。

1 黙々と作業を続ける部員たちの表情は真剣そのもの。部には11人が所属し、チームワークは抜群だ 2 タブレット端末でほとんどの制作物を手がける。簡単に修正ができ、外部とのやり取りもスムーズ 3 部員にとって、部室は作業に打ち込める特別な場所。壁には作品や「まんが甲子園」のポスターが貼られている

地元の魅力を再発見！ 活躍の場を広げた2つの依頼

「まんが甲子園」では絵の具を使って紙に描く。一方、その他の活動ではタブレット端末のイラスト機能を用いて制作。デジタル化のきっかけは、地域の民話をまとめた電子書籍『カラクリBOOKS』のイラスト制作と、大府市の「広報おおぶ」でのマンガ連載だ。

2年前、活躍を知った市の依頼により「広報おおぶ」での連載が決定。続けて大府市教育委員会から連絡が入り、『カラクリBOOKS』のイラストを担当することに。校外での活動の幅が一気に広がり、タブレット端末での制作を取り入れた。

「広報おおぶ」では、マンガと文章で地域情報を発信。横浜市から大府市に引越してきた主人公・大(まさる)が、家族や友人、地域住民との交流をきっかけに地元の魅力を発見するストーリーが展開される。毎号、部員は市内各所に取材。これまでに20回以上連載を続けてきた。「私自身、地元について知らないことがいっぱい。連載を経て、地域の良さを再発見できました」とほほ笑む。

『カラクリBOOKS』は、来年度、市内小学校の道徳の授業で教材として採用予定。部員は打ち合せを重ね、スケジュールに沿ってイラストの制作を進めていった。制作時間が限られる中、学業に支障が出ないよう勉強と両立させなければならない。部員は期限内でものづくりをする難しさを知ったという。加藤教諭は「校外の人々と関わり、ものづくりを知り、地域の魅力に触れる。部活動を通して、部員の視野が広がったと思います。この経験を将来の糧にしてくれるとうれしい」と目を細める。

大府夏まつり募集ポスター

大府市から依頼を受け、ストリートパフォーマンス募集ポスターを制作。2年生の松本幸一郎さんがひとりで描き上げた

広報おおぶ

主人公・大が友人宅へ遊びに行くと、禁煙に苦戦する友人の父がいた。マンガと文章で、市の禁煙外来治療費助成を紹介する

カラクリBOOKS

日本のバイオリン王と呼ばれ、大府市ゆかりの偉人である鈴木政吉について紹介。部員はしっかりと時代背景や人生を調べてから挿絵制作に挑んだ

受け継がれる大会への闘志 経験を将来の夢に生かして

今年度、部は「まんが甲子園」で痛恨の予選敗退。『カラクリBOOKS』や「広報おおぶ」で活動範囲は広がったが、大会への準備は十分ではなかったと部員は悔しさをにじませる。しかし、自身のアイデアが形となり、人の目に留まる機会は増えたとも振り返る。

今後も「広報おおぶ」での連載は続ける予定で、「まんが甲子園」にも挑戦していく。3年生は引退するため、後輩が意思を継ぐ。部長の中村有里さんは「将来の夢はイラストレーター。部活動を通して目標ができました」と声を弾ませた。

部室に足を踏み入れると、部員が熱心に机へ向かっている。何度もストーリーを練り、ひとコマに悩み、出来上がりで一喜一憂。好きなことに全力で取り組む姿は、キラキラと輝いている。

ぜひ応援してください！

顧問の加藤千秋教諭（左）と、3年生で部長の中村有里さん（右）

大府東高等学校 文芸部の皆さん

後列右から、2年生の堀萌奈さん、2年生の加藤梨瑚さん、1年生の池田美羽さん、1年生の小島夕葵さん、2年生の松本幸一郎さん、2年生の喜田高礼さん
前列右から、2年生の金田千絢さん、3年生の中村有里さん、3年生の納見怜亜さん、1年生の貝沼虎さん

文・写真／杉浦萌　写真提供／愛知県立大府東高等学校 文芸部　デザイン／内藤春香